

平成30年第3回邑楽町議会定例会議事日程第4号

平成30年9月13日（木曜日） 午前10時開議

邑楽町議会議場

- 第 1 認定第1号 平成29年度邑楽町一般会計歳入歳出決算認定について
- 第 2 認定第2号 平成29年度邑楽町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 3 認定第3号 平成29年度邑楽町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 4 認定第4号 平成29年度邑楽町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 5 認定第5号 平成29年度邑楽町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 第 6 認定第6号 平成29年度邑楽町学校給食事業特別会計歳入歳出決算認定について

○出席議員（13名）

1番	黒田重利	議員	2番	大賀孝訓	議員
3番	瀬山登	議員	4番	松島茂喜	議員
5番	塩井早苗	議員	6番	原義裕	議員
7番	松村潤	議員	8番	神谷長平	議員
9番	半田晴	議員	10番	坂井孝次	議員
11番	大野貞夫	議員	12番	田部井健二	議員
14番	小島幸典	議員			

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
大舩一	副町長
藤江利久	教育長
関口春彦	総務課長
横山淳一	企画課長
金井幸男	税務課長
築比地昭	住民課長
田部井春彦	安全安心課長
橋本恵子	健康福祉課長
久保田裕	子ども支援課長
森戸栄一	農業振興課長 兼農業委員会 事務局長
小林隆	商工振興課長
阿部昌弘	都市建設課長
山崎健一郎	会計管理者 兼会計課長
中繁正浩	学校教育課長
半田康幸	生涯学習課長
増尾榮一	監査委員

○職務のため議場に参加した者の職氏名

松	崎	嘉	雄	事	務	局	長
石	原	光	浩	書			記

◎開議の宣告

○小島幸典議長 これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付したとおりであります。

[午前10時00分 開議]

◎日程第1 認定第1号 平成29年度呂楽町一般会計歳入歳出決算認定について

○小島幸典議長 日程第1、認定第1号 平成29年度呂楽町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより逐条質疑に入ります。

まず、一般会計の歳入全款について質疑を行います。

決算書では65ページまでです。

質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 財産に関する調書についてお尋ねしたいのですが、4ページなのですが、その中で旧呂楽町役場で34平方メートルと提示されているのですが、この34平方メートルは何に利用されているのか、お尋ねをしたいと思います。

○小島幸典議長 関口総務課長。

○関口春彦総務課長 おくれて申しわけありません。

ただいまこの所在について明確な資料がございませんので、調査した上でお答えしたいと思います。申しわけありませんでした。

○小島幸典議長 神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 了解しました。では、後日お願いします。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○小島幸典議長 ないということで、次に歳出の第1款議会費、第2款総務費、第3款民生費について質疑を行います。

決算書では66ページから147ページまでとなります。

質疑ありませんか。

大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 決算書の111ページを見てください。

111ページの上から3つ目の白丸、ひとり暮らし老人福祉事業、ここの中で緊急通報装置、これ

が導入されてから何年かたつわけですが、実は私の近所なのですから、ひとり住まいというのですか、夜は長男と一緒に暮らしていますから、長男がいるのですけれども、お昼は長男が仕事に出ていってしまうと。残されたのは90歳を過ぎるおばあちゃんなのですから、非常に体がもう不自由で、いつも横になっているというような状態の中で、この緊急通報装置があれば欲しいというようなことで申し込みをしました。地元の民生委員を通じて申し込みしたのが、多分4月2日だと思います。それから今日までですともう半年たっているわけなのですから、なかなかその装置がつかないというような中で、過日行われた産業福祉常任委員会の中で質問させていただいたのですが、端的に言うならば、台数が限られていると。その限られている中で、順番待ちというような感じだったのです。

要するにこの趣旨は、いつ何どき何が起きてもそれに間に合うようにということで、いわゆる緊急装置ということになっているわけです。確かに1台10万円以上かかるような話でしたけれども、そのほかにいろいろメンテナンスとか、これはリースということになっていますから、リース料とかとなると、かなりの金額がかかって、恐らく20万円前後になるのではないかなというようなお話を承りました。ただ、これが必要に応じてそのときにすぐに使えないということになりますと、何のための緊急装置かということにもなりますので、その点でもし順番待ちということになれば、極端に言えば、それを使っている方が亡くなるか、何かによってあいたときにそれが回ってくるというような感じに受けとめられたのですが、この点について、これは所管ですので、町長にお答えいただきたいのですが、この現実、この現状について、町長としてどのようにお考えなのか、お伺いしたいと思います。

○小島幸典議長 金子町長。

○金子正一町長 緊急通報装置ということでもありますから、やはりその必要性が高い、緊急性の高いということになれば、それが利用できないということについては、これは大変申しわけない点があるわけです。担当のほうにその内容もちょっと聞きましたが、緊急通報装置の事業そのものを業者に委託しているという面がありまして、その委託の契約内容によってあいている機械もあるようでもありますから、委託する契約の内容によってその辺が十分緊急的に稼働ができるのではないかなということを課長には申し上げたのですが、現時点では内容がそのような状況になっているわけですので、至急その委託契約会社と協議をして、そして今質問があったようなことがないような形で進めていくことが必要だというようなことは課長のほうに申しましたので、至急その辺のところも会社と協議をしていただいて、緊急性の高い方についての対応はとれるような状況はつくっていきたいと、このように思います。

限られた台数ということではありますけれども、やはり地域の民生委員にいろいろ状況をお聞きした中で、緊急性が高い、そして環境がそのような状況であれば、この事業はやっぱり進めていくということが大切でもありますので、今後十分対応について協議をしていきたいと、このように思

います。

○小島幸典議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 まさに緊急性を要するこの事案なわけです。

これから高齢化がどんどん今進んでいく中で、この必要性はますます多くなってくると思います。きょう、けさ、ここへ来る前に民生委員の方に行き会って、今の私たちの住むところの地区の状態をちょっと伺ったのですが、既にそのほかに3件ほど申し入れをされているということ伺いました。ということは、私たちの身近なところで既にそういったことが起きているということは、町全体からすればかなりの数が必要になってきているというふうに思います。確かにお金のかかる問題ですから、ただ本人が多少体がある程度自分で自由はきくと。動ける中で、中にはそういう中でもそれがあれば安心だねというようなことを言っている方もおるそうです。ただ、一応基準というのですか、どこまでの人の場合はどうしても必要だといった場合には、当然その人には与えてあげなくてはいけないわけですから、その辺をよく考えてみますと、今現在行政実績報告書を見ますと、緊急通報装置設置台数が121台というふうにここに載っております。これが、平成29年度の実績の中では29台設置されたというふうには書いてあるのですが、これが121台の中に入っているのかどうか、ちょっとわかりませんが、そういう点ではかなりの数がこれから必要であろうということは、これは明らかで、その辺をよく精査していただいて、ぜひその要望に応じていただけるような体制を緊急にとっていただければというふうに思います。その辺、もう一言お願いいたします。

○小島幸典議長 金子町長。

○金子正一町長 即対応ということが肝心なわけでもあります。この緊急通報装置に頼るということも一つの手段でもありますし、また今盛んに言われておりますけれども、近隣の皆さんにその状況をつまびらかにして把握していただくということも大切なことでもあります。緊急性が高い。そして、その必要性が高いということは民生委員等にも調査をしていただいていることだと思いますので、その対応については担当のほうに至急改善を図るように努めていきたいと、このように申し上げます。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 進行してよろしいですか。

次に、第4款衛生費、第5款労働費、第6款農林水産業費について質疑を行います。

決算書では146ページから185ページまでとなります。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 次に、第7款商工費、第8款土木費、第9款消防費について質疑を行います。

決算書では184ページから215ページまでとなります。

質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 行政実績報告書の14ページになりますけれども、投資的事業の実績内訳というのですか、これの中の都市計画費の事業費内訳を見ますと、それともう一点、都市計画税が充てられた都市計画事業に要する費用と、この2点を引き合わせると数字がちょっと整合性が見えないのですけれども、その辺の違いについては何が原因なのか、お尋ねをしたいと思います。

参考に数字で質問させていただきます。投資的事業の実績というのが、事業費が2億686万7,000円で、都市計画税が充てられている都市計画事業に要する経費が2億9,489万7,000円、それで国の支出金が、初めに投資的事業の実績から数字を言います。国の支出金が6,744万1,000円、地方債が3,050万円、その他1,731万7,000円、一般財源が9,160万9,000円、それから都市計画税が充てられている事業ですけれども、これらの総事業費が2億9,489万7,000円、国県支出金が6,844万1,000円、地方債は3,050万円と同額です。その他1,240万6,000円、一般財源7,458万7,000円ということで、一般財源について1,700万円の違い、その他についてが491万1,000円の違いと。国、県支出金がマイナス1,000万円の違いと、それから総事業費がマイナス8,803万円との違いが出ているわけですが、これらの違いについての理由をお尋ねしたいと思います。

○小島幸典議長 関口総務課長。

○関口春彦総務課長 申しわけありませんが、確認をさせていただきたいと思います。

14ページの投資的事業の実績内訳書の都市計画費に係る事業費と、都市計画税の部分、そちらのほうにつきましては、申しわけありません。ちょっとどちらのほうの資料に載っているものなのか。申しわけありませんが、もう一度ご説明をお願いしたいと思います。

○小島幸典議長 神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 資料につきましては、先日議会当初始まったときに配付していただきました都市計画税が充てられる都市計画事業に要する経費というので、こういう資料が配られたわけですが、それとの数字の比較ですが。

○小島幸典議長 関口総務課長。

○関口春彦総務課長 お答えします。

詳細については、ちょっと私のほうでも把握をしておりませんので、これにつきましてはちょっとお時間をいただいて、ご回答させていただきたいと思います。申しわけありません。

○小島幸典議長 神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 それでは、先ほどのと一緒にお願いします。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 決算書の187ページを見てください。これも所管ですので、大変申しわけないのですが、町長に答弁をいただきたいと思います。

上から3つ目、商工支援事業、そのうちの呂楽町住宅リフォーム補助金、これが659万7,000円、決算でされているわけです。これは、今度の平成29年度の予算措置の中では600万円の予算措置がされたわけですが、途中で足らなくなったというようなことで、急遽補正を組んでいただいたわけです。その結果がこの金額なのですが、この事業費がいわゆる件数からすると52件で、約1億円という数字が出ております。もちろんこの住宅リフォームは町内業者、呂楽町の町内に在住して営業を営んでいると。ほとんどが大手というよりも、むしろいわゆる中小零細の方たちがやっておられる仕事になるわけです。多分にこれが活用されることによって、業者はもちろんのこと、1億円ということになりますと当然税収も町の中にも入ってきますし、業者も活気づくというような点では、私は制度とすればこれはいい制度だというふうに思っています。この結果について、町長の感想をひとつ伺いたいと思います。

○小島幸典議長 金子町長。

○金子正一町長 平成29年度について議員がご指摘されましたように、当初予算に対して利用者が多かったということで、補正をさせていただいて対応したという経緯があります。であれば、決算が650万円ほどの決算に対して、当初予算が600万円、いかなものかというようなお尋ねであります。これについては昨年の申し込みの実績を踏まえて、そして予算措置をしたという経緯がありますので、だからといってまたことし多くなった場合については、また補正かということにもなるわけですが、現状の中では十分対応している、平成30年度については対応できているような状況もありますので、これは659万7,000円の補助に対して約1億円を超える総事業費ということになっておりますので、町内の施工業者についてはそれなりの効果があったと思いますし、また施工した施工主に対してもリフォームができたということでは、この制度はやはりよろしかったかと、そんな感想も持っているところでもあります。

○小島幸典議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 今町長の答弁の中にありましたように、平成30年度の予算は800万円ということでふえておりますので、この中で対応できるのではないかと。ことしの実績から見ますと。ただ、このリフォームというのは町だけではなくて、いろんなところでやっています。農協等でもリフォームをやっています。これがふえることが、要するに今中小零細業者のいわゆる活性剤の一つになるであろうというふうにも思っていますが、同時に私は今までも一般質問の中で何回か触れてきましたが、こうしたことが、いわゆるこの住宅リフォームというのは個人の住宅ということに限っておるわけですが、これをもう一步前進させて、店舗、商業、お店を営んでいる方の店舗のリニ

ューアルということが今全国的にも展開をされております。こうしたことにもう一步踏み込んでできれば、そういう形でやったらどうかというふうにも思うのですが、その点はいかがでしょうか。

○小島幸典議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほど平成30年度の当初予算600万円というお答えを申し上げましたが、今議員のほうからお話がありましたように、800万円ということで増額をさせていただいた経緯があったわけでありますので、訂正させていただきたいと思えます。

さて、併用住宅に対しての、いわゆる店舗兼住宅の併用住宅についてのリフォームについて拡大すべきではないかというようなご質問でありますけれども、今議員ご案内のように、担当する都市計画課のほうでは、いわゆる耐震の診断の問題、その耐震にあわせての計画説明会ということも起こしているわけでもありますので、専用住宅ということについてのお願いということでもしてありますので、これらの状況を踏まえた中で十分検討していく必要があるのかなというふうに思っております。さきの質問にお答えしたかと思えますが、店舗兼併用住宅については現時点のところ検討させていただくということの状況でご理解をいただきたいというふうに思えます。

○小島幸典議長 大野貞夫議員。

○11番 大野貞夫議員 これは最後にいたします。

この間の一般質問の中でも、町長の答弁の中では検討するというお答えをいただきました。検討するということが、具体的にでは大体いつぐらいごろまでにそういうことに着手していくのかという点になりますと、非常に曖昧なことなのですね、検討ということは。一説によれば、検討するということはやらないということなのだというようなことも言われておりますけれども、ぜひそういう点ではこれを具体化して、そのための研究をぜひやっていただきたいということを最後に申し上げて、終わりにします。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 なしということで、進行させていただきます。

次に、第10款教育費、第11款災害復旧費、第12款公債費、第13款諸支出金、第14款予備費について質疑を行います。

決算書では214ページから309ページまでとなります。

質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 決算書の285ページ、10款教育費、1項社会教育費、6目図書館費についてお尋ねをしたいと思うのですが、2点ばかりお願いをしたいと思えます。

当初この図書館費においては15節工事請負費の項目が存在をしていなかったような気がしますが、決算時期については15節工事請負費が計上されております。その点について1点と、もう一点

は修繕費、補正予算をやるたびに、9月補正、12月補正、3月補正の3回の補正で修繕費は189万6,000円として計上されているわけですが、この修繕についてはどのような修繕を行ったのか、確認をしたいと思います。

以上です。

○小島幸典議長 半田生涯学習課長。

○半田康幸生涯学習課長 まず、図書館の工事請負費についてですが、こちらは当初ご指摘のとおり、工事請負費は計上してございませんでした。

年度途中、具体的には4月末ですが、2階の視聴覚室の空調機器が故障してきかないという事態が発生をいたしましたので、予備費を充用させていただき、新たに節を設けたということでございます。具体的には289ページ、下から3分の1ぐらいのところに記載をされておりますが、視聴覚室空調機器更新工事として46万4,000円の予備費を活用させていただき計上したと、そして執行させていただいたということでございます。

2点目の修繕費でございますが、具体的な工事の内容といたしましては、電話機の交換修繕に62万5,000円ほど、それから図書館入ってすぐのところのエントランスロビー及び児童室の照明器具が故障いたしまして、その交換のために18万円ほど、また年を越しまして1月に入ってからですが、はくちょう号という移動図書館車がございまして、これを入れておく車庫のオーバースライダーといましてシャッターですけれども、こちらが故障して、あかなくなってしまったということがございましたので、そのための修繕のために70万円弱補正等をさせていただき、修繕工事を執行させていただいたということでございます。

○小島幸典議長 神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 予備費を工事費に充用するという点についてはよろしいことだと思うのですが、ただこの時期が先ほどの説明を聞くと4月末日と、年度始まってすぐと、そういう状況の中で予備費を充用したということですが、本来からいけば、もしどうしてもやらなくてはならないというので充用した場合に、後日予備費については何が起きるかわかりませんから、これは年度初めですから、本来であれば補正を入れて予備費をふやしておくべきではなかったのかなと、そのように私は感じていますが、何でも予備費を充てればよいという状況ではなくて、実際にこの業者決定の入札も5月25日に入札決定されているわけです。事前に、極端な話をすれば、6月にでもこういう状況で補正を組まざるを得なかったという形で予算計上してもよろしいかなと、そのように思うのですが、そういう状況が全く見えず、予備費でやればよいのだというのではなくて、そうすると何が何でも、これは難しいから予備費で対応してしまえと、そういう状況が発生しかねないので、この辺については十二分に気をつけてもらった中でやるべきではないかなと。

それから、修繕費についてはかなり修繕が多いということで、建物も建って、期間も過ぎているということで、ある程度思い切った修繕が必要かなと思いますので、これらについてはやはり年度

当初の中で対応すべきな事業ではなかったのかと思いますので、これからの施設については、町長、お尋ねしますけれども、年度当初の中で各課長の意見を聞いた中でしっかりと予算計上をしていたように、町長の考えをお尋ねしたいと思います。

○小島幸典議長 金子町長。

○金子正一町長 予備費の執行については慎重を期してやっていかなければいけないということは十分承知しております。緊急やむを得ないということの部分についての今回の図書館のこの視聴覚室の空調設備の故障ということでありまして、当初から計上ということの考え方もご指摘もありましたけれども、この故障をしたのが5月に入ってからということで、5月の末から6月にかけての対応をさせていただいたということでありましたので、予備費を執行させていただいたという経緯でもあります。もちろんそれらの機械器具の点検もしているわけでもありますけれども、緊急的に故障してしまったということで、その執行をさせていただいたということですので、その点については予備費については慎重に行っていくことは、議員と同じように同感であります。

それから、補正の関係ですが、189万円ほどの執行ということで、何度かの補正をしているのではないかということについても、これは最後に車庫の70万円という担当課長からの報告がありましたが、これもたしか私の記憶では、西風、強風でシャッターが壊れたというふうに記憶しているのですが、これもまた当初見込みができないような修繕が発生してしまったということになります。しかし何回も繰り返し、繰り返し補正があるということではなりませんので、今後十分施設の管理ということも含めて、事前に、また緊急的にやらなくてはならないということについては、議員がご指摘されましたように、数回の補正ということでなくして、まとめて修理ができるような環境は整えていきたいと、このように思います。

○小島幸典議長 神谷長平議員。

○8番 神谷長平議員 ぜひ施設は図書館ばかりではございませんので、シンボルタワーもかなり傷んでいる面も出てきているかなと。そういう状況も見えますので、全体的な施設の見直しをした中で、次年度の予算計上については慎重にやっていただきたいと。

以上で終わります。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

松島茂喜議員。

○4番 松島茂喜議員 決算書の269ページになりますが、ちょうど中段の部分、中央公民館建設事業の中のこの助言者謝礼20万円ということなのですけども、これはどんな方からどんな助言をいただいたのか。もし複数いらっしゃる場合は、その内訳も含めてちょっと具体的に教えていただきたいと思います。

○小島幸典議長 半田生涯学習課長。

○半田康幸生涯学習課長 こちらは、備品購入に伴います助言者謝礼ということでございまして、具

体的にはグランドピアノの購入に伴いまして、実際の弾き比べ、太田市民会館のご協力をいただきまして行いました弾き比べ、それからスタインウェイ本社で行いました3基の中から1基を最終選定するための選定、こちらにピアニストの方をお願いをした謝礼でございます。

○小島幸典議長 松島茂喜議員。

○4番 松島茂喜議員 助言という形になっておりますので、ピアノを選定する際に助言をいただいたということよりも、選定をした手数料というか、そういう形であろうかなと思うのですが、この助言者謝礼金20万円が結果的にはピアノを選定していただいたということなのですけれども、これからの公民館運営に関して具体的にどういったことに有効的にそれが使われていくのかということをお私に検証すべきであると思うのですが、その点についてはどんな方向性なのでしょうか。

○小島幸典議長 半田生涯学習課長。

○半田康幸生涯学習課長 まず、このピアニストの方というのは近隣の出身の方でございまして、世界的に活躍をされている方でございます。

今後特にこの間、新しくホールがございまして、非常に音響的には評判がいい。特に音楽、クラシックには適したホールということで、出演者の皆さんからもご好評をいただいております。そういった意味で、今後の事業展開の中で、このピアノを選定してくれた方のコンサートや、あるいは地域の小中学校やさまざまなおところにアウトリーチの後継者の育成、そういった点で大いに貢献をしていただけるのではないかなというふうに考えております。

なお、これは平成29年度ではなくて平成30年度の事業になりますが、ピアノが実際に納品されてから弾き込みという作業が必要になります。これにつきましては、ピアノを最適な状況でパフォーマンスを発揮するために事前にたくさん弾いて、満遍なく鍵盤を押して、ピアノをならすという作業でございますが、これにつきましても平成30年度の予算の中で委託料として計上させていただいているところですが、なるべく多くの皆さんに愛していただき、利用していただく。特に町内外のピアノの先生等に発表会等で使っていただくということを期待いたしまして、ボランティアを募集いたしました。このボランティアには30名を超える方が応募をしてくださいます。そういった方々もこのピアノについて愛着を持って、今後大いにホールを活用していただけるのではないかとこのように期待しているところでございます。

○小島幸典議長 松島茂喜議員。

○4番 松島茂喜議員 この助言者謝礼につきましては、平成28年の当初予算でも組んだ経過がありました。結局は不用額ということで使わなかったということで、また平成29年度に計上という形です。今の説明ですと、グランドピアノの選定にかかわってくださったプロのピアニストの方にお支払いをしたという形であったと思うのですが、今後もし同じようなそういった助言者という方が必要になるということがもし発生するような場合においては、ぜひ私は公民館運営をこれから

していく中で構築されていくだろうと思われる、その人脈をぜひ使っていただいて、そして無償で助言をいただく。そういったことが私は必要だと思っているのですけれども、特に町長の人脈が私は必要だと思いますが、その点については町長はどんなお考えなのでしょうか。

○小島幸典議長 金子町長。

○金子正一町長 ご指摘のとおりだというふうに思います。

これから中央公民館のみならず、ほかの事業についてもそういった機会を利用しての協力をいただくということは大変大切なことでもありますので、できるだけ、いわゆる社会資源の活用ということではちょっと言葉がどうかと思いますが、協力をいただいて、有効にそれぞれの仕事が進むように努力をしていきたい、そのように思います。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

松村潤議員。

○7番 松村 潤議員 決算書の309ページです。先ほども話がありましたけれども、不用額が1億6,088万8,580円と、こうなっております。毎年毎年1億円以上の、昨年度は1億5,000万円ぐらいだったと思いますけれども、そういうように毎年毎年不用額が出ているわけです。予算に対して執行率は100%ということはありませんけれども、そういったことで不用額が出るわけですが、一般的に不用額は前年当初予算に対して何%ぐらいが妥当かということをお聞きしたいと思うのです。それが1点。

それから、もう一つは、不用額が発生する原因はいろいろあると思うのですが、主な原因についてちょっとお聞きしたいと思います。

○小島幸典議長 関口総務課長。

○関口春彦総務課長 お答えいたします。

まず、2点目の不用が発生する主な理由としましては、各予算が細かく細節という形で各事業のそれぞれの項目ごとに割り振られておまして、その額を超えて当然執行できないということで、予算の単位が非常に何千円という単位になっております。そのために一つ一つのところでどうしても不用という額が出てしまうことになっておるわけですが、その中でも比較的まとまって不用が出てしまうものとしては扶助的なものです。補助金、補助的なものにつきまして、幼稚園の、私立保育園とかの補助金のようなものは各利用率、利用者によって決まってくるものですから、最終的に3月末にならないと額が確定しないということで、先ほど申しましたように、執行できないということがないように、ある程度まとまったというか、額を持つ必要があるということで、そういったものが重なって不用になっているということが大きな主な原因だというふうに考えます。

また、どの程度かということに関しましては、ちょっと一概には言えませんが、できるだけ少ないほうがいいということ間違いありませんので、現在の額を基準に、昨年よりも減っていると思いますので、それがより少なくなっていくように努力をしていきたいということで、現在の数値を

目標としていきたいというふうに考えております。

- 小島幸典議長 ただいまの答弁は所管でしたけれども、始めましたので、議長の判断で答えをそのまましてもらいましたけれども、この次は所管でない、町長のほうから答えを求めてください。松村議員をお願いします。

松村潤議員。

- 7番 松村 潤議員 申しわけありませんでした。所管でしたので、町長にお聞きすべきだったと思っています。

今総務課長のほうから説明がうるありましたけれども、できるだけ少ない経費で事業を行っていくようにしていただきたいと、このように思っておるわけです。ですから見直すべきところは見直していただきたいと、このように思っていますけれども、町長の考え方もちょっとお聞きしたいと思います。

- 小島幸典議長 金子町長。

- 金子正一町長 決算審査の中でも監査委員のほうからご指摘をいただいているところでもありますが、この執行率については100%にということはなかなか難しいわけですし、100%に近い数字での執行率というのは私は必要だというふうに思っております。前年度と比較しますと1.5%ほど執行率が高くなった。結果として98.2%の執行率であったということを考えますと、やはりそれぞれの事業を担当する職員のほうでその辺も十分踏まえた中での執行をいただいたのではないかというふうに思っておりますし、今後もそういったことを念頭に進めていきたいと、このように思います。

それから、先ほど発生原因については総務課長のほうから、その多くは扶助費というお話がありました。どうしても扶助的な数字というのは国、県からの交付金という形が多くなってきて、その交付決定が3月の年度末になってしまうという、一つの事務的な問題というふうに理解しておりますが、そういうことを踏まえますと、どうしても予算執行の残がその部分については多くなってしまいうことが要因だろうというふうに理解しておりますが、これもできるだけ執行率を高めるということでの考え方が今申し上げたとおりでございますので、今後努力をしていきたいと、そのように思います。

- 小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 小島幸典議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

大野貞夫議員。

〔11番 大野貞夫議員登壇〕

- 11番 大野貞夫議員 認定第1号 平成29年度邑楽町一般会計歳入歳出決算認定について、反対の

討論を行います。

第2次安倍内閣が発足して6年余り。この間、アベノミクスなる経済政策により、我が国は大企業、高額所得者には税制面において手厚く優遇する反面、多くの国民は実質賃金の低下、唯一の命綱である年金をはじめとした社会保障の後退などにより、ますます格差が広がっています。また、モリカケ問題、公文書改ざんに象徴されるような政治の腐敗、一方で軍事予算は今年度概算要求でも5兆3,000億円を超えるほどになりました。資本金10億円以上の大企業の内部留保は近年ますます膨らみ、ついには400兆円を超えるまでになっています。

また、同時に最大の不公平税制となっている8%の消費税ですが、邑楽町予算平成29年度の一般会計予算額に占める消費税は約90億円の支出のうち、実に1億5,000万円支出しています。こうした中、邑楽町の状況を見たとき、高過ぎる健康保険料、介護保険料をはじめとした重税感により、払いたくても払えないことによる滞納者の増加、それによる差し押さえなど、また障害を持った子供たちやそれらを抱えた家庭における貧困の諸問題、一般には目に見えないところでの現状もあります。

また、平成29年度の町長の施政方針による主要事業の一つである少子高齢化対策における子供のための教育・保育給付事業、子ども・子育て支援事業においても一定の前進はあるものの、邑楽町に住みたい、住んでよかったと思えるにはほど遠いものであり、もっと思い切った政策展開が必要です。小学校、中学校入学時に必要とされる経費だけでも小学校では6万8,200円、中学校では20万1,900円、そのほかに修学旅行、スキー教室、給食費など、合わせると家庭における負担増ははるかに大きくなります。

以上申し上げたことは一例にすぎませんが、町の予算の使い方をもっと大胆に見直す必要があると考えます。毎年計上する財政調整基金、一定の積み立ては理解するにしても、毎年3億円以上の積み立ては果たして必要でしょうか。現在財政調整基金は今年度末決算時に20億2,000万円です。足らざるところに有効に活用する。必要と思うところには思い切った施策を講じる。それによって、町の活性化を図ることが求められていると考えます。今後税の大胆な有効活用を要望して、反対討論といたします。

○小島幸典議長 ほかに討論ありませんか。

松村潤議員。

〔7番 松村 潤議員登壇〕

○7番 松村 潤議員 認定第1号 平成29年度邑楽町一般会計歳入歳出決算認定について、賛成討論を行います。

歳入においては、前年度決算額と比較して2億5,809万円の減となっております。基金からの繰入金等が減少したことが主な原因です。歳入総額は減額でしたが、自主財源である町税は前年度より5,800万円の増額となり、現年課税分の収納率も向上しており、収納の努力が認められます。歳

出総額の執行率は、昨年度を1.5%上回る98.2%となっており、効率的な事業執行により繰越金も8,841万円の減少となっております。

主な事業の成果としましては、少子化対策では保育園を施設改修することにより、保育ニーズの増加に対応するための保育園の定員増が行われ、子育て環境の改善が行われました。また、子育て世代の多様な要望に対応するためのファミリーサポートセンター事業が開始されています。

まちづくりでは、少子高齢化や人口減少、就業形態の変化など、さまざまな課題に対して効率的で住みやすいまちづくりの指針となる呂楽町都市計画マスタープランの見直し及び呂楽町立地適正化計画の策定が行われました。

生活基盤の整備では、道路新設改良工事として国庫補助金を活用しながら、町道幹線5号線、町道幹線18号線の整備が行われ、歩道が設置されるなど交通環境の改善が進みました。

教育関係では、本年9月に開館した中央公民館のソフト事業として、開館準備事業が取り組まれてきました。その成果は、先日の開館記念式典及びオープニングイベントで十分に発揮されており、今後も文化的なまちづくりのために一層の充実を期待します。

財政面では、実質公債費比率は6.3%で、前年より0.4%増加しているものの、早期健全化基準の25.0%より大きく下回っており、健全な財政が維持されています。

以上のとおり、平成29年度においては堅実な財政運営が行われております。今後とも少子高齢化と人口減少に対応した施策に加え、町民が夢や希望を持って暮らせるまちづくりを目指し、さらなる行政運営の効率化と行政サービス充実に努力されるようお願いし、賛成討論といたします。

○小島幸典議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより認定第1号 平成29年度呂楽町一般会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○小島幸典議長 起立多数。

よって、認定第1号は原案のとおり認定することに決定しました。

◎日程第2 認定第2号 平成29年度呂楽町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

○小島幸典議長 日程第2、認定第2号 平成29年度呂楽町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより認定第2号 平成29年度邑楽町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○小島幸典議長 起立多数。

よって、認定第2号は原案のとおり認定することに決定しました。

◎日程第3 認定第3号 平成29年度邑楽町後期高齢者医療特別会計歳入歳出
決算認定について

○小島幸典議長 日程第3、認定第3号 平成29年度邑楽町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより認定第3号 平成29年度邑楽町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○小島幸典議長 起立多数。

よって、認定第3号は原案のとおり認定することに決定しました。

◎日程第4 認定第4号 平成29年度呂楽町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

○小島幸典議長 日程第4、認定第4号 平成29年度呂楽町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

瀬山登議員。

〔3番 瀬山 登議員登壇〕

○3番 瀬山 登議員 認定第4号 平成29年度呂楽町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、賛成討論を行います。

全国的に高齢化が進む中、呂楽町においても平成29年度末の高齢化率は29.96%となり、速いスピードで確実に上昇しております。介護保険制度は、要介護高齢者、認知症高齢者、ひとり暮らし高齢者などが着実にふえる中で、介護や生活支援などのサービスを受けることができる非常に重要な制度であります。平成29年度は、第6期介護保険事業計画の最終年度であります。第7期を見据えた計画の策定も行われました。事業の健全な運営の継続を図るとともに、制度の維持、発展のため、より利用者のニーズに合った介護サービスの提供を続け、ますます重要となってくる地域支援事業の充実を要望し、本認定に賛成いたします。

○小島幸典議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより認定第4号 平成29年度呂楽町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○小島幸典議長 起立多数。

よって、認定第4号は原案のとおり認定することに決定しました。

◎日程第5 認定第5号 平成29年度呂楽町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

○小島幸典議長 日程第5、認定第5号 平成29年度邑楽町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより認定第5号 平成29年度邑楽町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○小島幸典議長 起立全員。

よって、認定第5号は原案のとおり認定することに決定しました。

◎日程第6 認定第6号 平成29年度邑楽町学校給食事業特別会計歳入歳出決算認定について

○小島幸典議長 日程第6、認定第6号 平成29年度邑楽町学校給食事業特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

松島茂喜議員。

○4番 松島茂喜議員 決算書ですと15ページ、行政実績報告書ですと160ページになるかと思うのですが、決算書のほうの15ページ、上から8段目になりますが、賄材料費ということで約1億3,000万円ということになっていますが、行政実績報告書のほうに地場産の農産物の使用ということで12品目使われ、合計が4万1,059キロ使われたということなのですが、これは金額にするとこの約1億3,000万円のうちどれくらい地場産のものが金額的には使われているのか、その点についてお伺いします。

○小島幸典議長 中繁学校教育課長。

○中繁正浩学校教育課長 お答えをいたします。

野菜ということで、一応この金額ですと1,100万円ほど、細かい数字はちょっとあれなのですが、約1,100万円となっております。

以上です。

○小島幸典議長 松島茂喜議員。

○4番 松島茂喜議員 畜産物も含めてですと幾らになるのでしょうか。

今野菜に関しては1,100万円ほどというお話でした。ということは、全体で約1億3,000万円あるわけですから、そのうちの本当に数%ということになると思います。やはり地場産の農産物をもう少し積極的に使うことで、当然地産地消も進むわけですし、地元農家も助かるという状況になってくるかと思うのですが、まだまだこの数字は私は努力によって上げられると思います。その努力はどのようなものかと言えば、当然メニューを組む際に、やはり地場産の材料を使うような、そういったメニューを組んでいただく努力も私は必要だと思っていますし、また物資購入部会のほうも年に2回ほど開かれているというようなことも行政実績報告書のほうに記載があります。そういったところで議論を深めて、やはり邑楽町の農産物をつくった方の顔の見える形で提供していただくということが私は必要だというふうに思っておりますが、その点について教育長の見解をお伺いします。

○小島幸典議長 藤江教育長。

○藤江利久教育長 貴重なご意見ありがとうございます。地場産の食材を多く使えということですので、これは十分協議していかなければいけない問題かなというふうに思っております。

また、給食センターのほうには小学生が行って、つくっている人は見るのですけれども、つくっている方というのはなかなか見る機会はありませんので、そういった野菜づくりの現場とか、そういうところにどんどん行きたいと思っています。よろしくお願いします。

○小島幸典議長 松島茂喜議員。

○4番 松島茂喜議員 お米のほうも今町の認定農業者の方にお問い合わせをして、そして給食センターにおさめていただいているという形がとられているようであります。ですから、やはり野菜、それから畜産物もしっかりですけれども、どういう方がつくって、そしてその人たちがどういう努力をして、それで自分たちの口に入れているのか。そういった点は子供たちにとってもすばらしい食育になると思いますし、ぜひその辺は推進していただきたいと要望して、終わります。

○小島幸典議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。

大賀孝訓議員。

〔2番 大賀孝訓議員登壇〕

○2番 大賀孝訓議員 認定第6号 平成29年度邑楽町学校給食事業特別会計歳入歳出決算認定につ

いての賛成討論を行います。

現在の学校給食センターは衛生管理にすぐれ、学校給食衛生管理基準を満たした施設として整備され、平成23年8月より稼働を始め、7年が経過しました。学校給食の提供に当たっては、地産地消の推進に配慮するとともに、できるだけ多くの子供たちが安全に安心して食べられるよう、常にその原材料を見きわめながら食材を選ぶなどの細かな配慮を欠かさずに事業執行に当たっております。今後とも学校給食の重要性を深く認識し、子供たちのためにその目的と効果を十分発揮できる学校給食センターとして運営できるよう最善の努力を要望し、本認定に賛成をいたします。

○小島幸典議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小島幸典議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより認定第6号 平成29年度邑楽町学校給食事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○小島幸典議長 起立全員。

よって、認定第6号は原案のとおり認定することに決定しました。

◎散会の宣告

○小島幸典議長 以上で本日の日程は終了しました。

あす14日は午前10時から会議を開きます。

本日はこれにて散会します。

お疲れさまでした。

〔午前11時12分 散会〕